

[閉じる](#)

現代英米文学特殊講義Ⅱ A

サブタイトル	都市と田園の網目をたどる～労働と貧困と他者のリアリズム
担当者名	大石 和欣
単位	2
年度・学期	2020 秋
曜日時限	月2
キャンパス	三田
登録番号	40471
設置学部・研究科	前期博士課程（修士課程） 文学研究科
設置学科・専攻	英米文学専攻
学年	1, 2
分野	修士課程科目文学研究科科目

授業科目の内容・目的・方法・到達目標

この授業は、コロナウィルスの感染状況によっては秋学期もZoomを用いたオンライン授業になる可能性があります。履修希望者は担当教員（kazoishi@keio.jp）に事前にご連絡ください。

「都市は田園を造り、人が都市を造った」と言ったのは十八世紀の詩人ウィリアム・クーパーですが、実際のところ都市と田園の間には人や物、情報を媒介にした相互依存関係があります。十九世紀において、都市で発展する産業に従事する労働者は田園から供給され、都市でつくられた製品や商品は田園に流通していきます。都市で集積された情報も田園へと流れていきます。人びとは職や社交を求めて、田園から都市へと移動し、また余暇や観光のために都市から田園へと移動します。都市は田園によって成り立ち、田園もまた都市によって造られているというのが実態でしょう。

この講義では都市と田園との相互依存関係のあり方を、ヴィクトリア時代の小説のなかで考えていきます。とりわけそのなかで労働や貧困の表象を問題にしてみたいと思います。レイモンド・ウィリアムズは『田舎と都会』において、イギリス文学作品に描かれた都市と田園の対照性と関係性を精緻に辿りながら、とりわけ中流階級作家・詩人による農業労働者や田舎の住人たち、都市の卑賤な住人たちの表象に、階級意識や社会意識を含んだ「感情構造」を見出していきます。しかし、文学史においては、ディケンズの『困難な時代』やギャスケルの『北と南』や『メアリ・パートン』、ディズレーリの『シビル』などの産業小説は「リアリズム」というカテゴリーのなかに位置づけられます。ジョージ・エリオットの小説、トマス・ハーディーの小説もまた、田園の労働者たちの「リアル」な表象として議論されることが多いものです。労働者や貧民たち、あるいは都市に流れ込んできた「他者」としてのよそ者たちや移民たちの「リアルな」表象とは何を意味するのでしょうか。彼らの表象を焦点にしたとき、ヴィクトリア小説におけるリアリズムとは何かを考える必要が生じてきます。

ウィリアムズの議論の検証からはじめ、ディケンズ、ギャスケル、エリオット、ハーディーの小説を読解しながら、ルカーチのリアリズム論やナンシー・アームストロングなどの写真とリアリズム論を経由して、同時代の絵画や労働や貧困、帝国についてのルポルタージュ言説を参照することで、ヴィクトリア朝小説におけるリアリズムについて考えてみたいと思います。

授業の計画

第1回

Guidance: Raymond Williamsとリアリズムの言語

第2回

Matthew Beaumont, ‘Literary Realism Reconsidered’

From Matthew Beaumont (ed.), *A Concise Companion to Realism*

第3回

Simon Dentith, ‘Realist Synthesis in the Nineteenth-Century Novel’

From Matthew Beaumont (ed.), *A Concise Companion to Realism*

第4回

Charles Dickens, *Hard Times*

第5回

Elizabeth Gaskell, *Mary Barton*

第6回

Henry Mayhew, *London Labour and London Poor &c.*

第7回

György Lukács, *On Realism*

【ジェルジュ・ルカーチ『ルカーチ著作集8 リアリズム論』】

第8回

George Eliot, *Adam Bed*

第9回

Nancy Armstrong, ‘Realism before and after Photography’

第10回

Thomas Hardy, *Tess of the d'Urbervilles*

第11回

George Gissing, *The Nether World*

第12回

Charles Booth, *Life and Labour of the People in London,*

第13回

Realism and Modernism

Virginia Woold, ‘Mr Bennett and Mrs Brown’

その他

リアリズムについて総括

成績評価方法

出席（50％）、プレゼンテーション（25％）、レポート（25％）

テキスト（教科書）

とくになし

参考書

授業中に配布する。

担当教員から履修者へのコメント

この授業は、コロナウィルスの感染状況によっては秋学期もZoomを用いたオンライン授業になる可能性があります。履修希望者は担当教員（kazoishi@keio.jp）まで事前にご連絡ください。授業の形態や資料をお知らせします。